



【鷺別中学校区が目指す15歳の子ども像】
『受け入れ合い 支え合い 高め合う生徒』
～互いの考えや意見を尊重した発言・行動を目指して～
【鷺別中学校が育成を目指す資質・能力】
「表明力」「挑戦心」「協働性」

登別市立鷺別中学校 学校便り 令和8年2月20日発行 第11号(学校評価掲載)

令和7年度「学校評価」結果等のお知らせ ～「よりよい鷺中を創る」ために～

昨年12月に実施しました今年度の学校評価（生徒自己評価・保護者アンケート）では、御多用中にも関わらず、御協力いただきありがとうございました。おかげさまで、92.4%という高い回収率で保護者の皆様に回答をいただき、信用性の高い評価結果を得ることができました。その集計結果と分析・考察等についてまとめましたので、お知らせいたします。

- 1 小中共同実践項目について【回答率：生徒96.0% 保護者92.4%】（生徒自己評価と保護者アンケート、教職員評価から）
(1) 集計結果 A:4点(あてはまる) B:3点(どちらかといえば、あてはまる) C:2点(どちらかといえば、あてはまる) D:1点(あてはまらない) **中央値 2.5**

A ■ B ■ C ■ D ■ 導点：A=4、B=3、C=2、D=1として数値化

アンケート番号	項目		評価割合(ABCDの全体に対する割合 %表記)	今年度	昨年度
保護者13 生徒 7	【保護者・教職員】 学校は、子供が意見を伝えることを大切にして、教育活動を進めている。 【生徒】 私は、自分の考えや意見を他者に伝える(発表・発言等)ができています。	保護者	29.4 63.2 7.4	3.2	3.1
		教職員	43.5 56.5 0	3.4	3.5
		生徒	27.5 42.5 24.6 5.4	2.9	2.9
保護者14 生徒 8	【保護者・教職員】 学校は、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦できる教育活動を進めている。 【生徒】 私は、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦することができている。	保護者	27.7 60.2 11.3 0.9	3.1	3.0
		教職員	34.8 65.2 0	3.3	3.4
		生徒	31.3 33.3 30.0 5.4	2.9	2.9
保護者15 生徒 9	【保護者・教職員】 学校は、自分と違う意見を大切にし、考えることの楽しさが実感できる教育活動を進めている。 【生徒】 私は、自分の意見を大切にして、考えることの楽しさを実感することができている。	保護者	27.7 61.9 10.0 0.4	3.2	3.0
		教職員	26.1 73.9 0	3.3	3.5
		生徒	33.8 43.8 19.6 2.9	3.1	3.0

(2) 分析 (□) ・考察等 (●)

※上記3項目、生徒自己評価、保護者アンケート、教職員評価の同一質問内容の三者比較項目から

□「意見を伝える」「挑戦する」といったアウトプットや行動面において、保護者・教職員の90%が肯定的な評価

(A+B) をしています。一方、生徒自身の自己評価はそれに及ばず、周囲が認めるほどには、生徒自身が「できている」という実感を持ちきれていない現状が浮かび上がっています。

●生徒が「自分の意見で状況が変わった」という手応えを感じられる段階へ移行する必要があります。生徒会活動や学級会において、生徒の意見を行事運営等に反映させるなど、アウトプットが具体的な変化に結びつく経験を積み重ねることで、「意見を伝える」「挑戦する」の意欲向上を図ります。

□「挑戦できている」の項目で、30%の生徒がC評価（慎重な姿勢）を示しています。良好な人間関係の中で「自己」を肯定できてはいるものの、新たな課題への「自信」には欠ける現状がうかがえます。今後は一層、失敗を恐れず一步を踏み出せる「心理的安全性の高い環境づくり」に注力します。

●「挑戦への慎重姿勢」を改善するため、結果だけでなく「試行錯誤の課程」を称賛する評価が大切になってきます。「失敗から何を学んだか」といったプロセスを価値化する支援を行い、失敗を恐れずに次の一步を踏み出せる環境づくりに努めます。

□「考えることの楽しさ」については、生徒の平均値が3.1へ向上し、否定的な評価（C・D）も3項目中で最小となりました。保護者の肯定的な評価（A+B）も90%と高く、本校の取組が着実に浸透しています。今後はこの「思考の楽しさ」を原動力に、主体的な「挑戦」へとつなげていくことが次のステップとなります。

●定着しつつある「思考の楽しさ」を土台とし、考えたことを「発信する力」や「行動に移す力」へとつなげるような実践的な活動を図っていきます。

2 経営の重点について【回答率：生徒 96.0% 保護者 92.4%】

重点1 「生徒の成長が実感できる資質・能力の向上」確かな学力・豊かな心・健やかな体

(1) 集計結果 A:4点(あてはまる) B:3点(どちらかといえば、あてはまる) C:2点(どちらかといえば、あてはまらない) D:1点(あてはまらない)

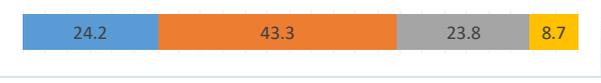
(生徒自己評価と保護者アンケートから)

中央値 2.5

A B C D 導点: A=4, B=3, C=2, D=1として数値化

アンケート番号	項目		評価割合(ABCDの全体に対する割合 %表記)	今年度	昨年度
保護者1 生徒 1	【保護者】 子供は、学力の向上を目指し、タブレット等の端末を効果的に活用するなど、進んで学習することができる。 【生徒】 私は、学力の向上を目指し、タブレット等の端末を効果的に活用するなど、進んで学習することができる。	保護者		2.8	2.9
		生徒		2.8	2.9
保護者3 生徒 2	【保護者】 子供は、自分のよさを自覚し、思いやりの心を大切に生活することができる。 【生徒】 私は、自分のよさを自覚し、思いやりの心を大切に生活することができる。	保護者		3.3	3.3
		生徒		3.2	3.2
保護者5 生徒 3	【保護者】 子供は、命を大切に、安全で健康的に生活することができる。 【生徒】 私は、命を大切に、安全で健康的に生活することができる。	保護者		3.6	3.6
		生徒		3.6	3.6

A  B  C  D  導点: A=4, B=3, C=2, D=1として数値化

アンケート番号	項目		今年度の評価割合(ABCDの全体に対する割合 % 表記)	今年度	昨年度
保護者2	【保護者】 学校は、わかりやすい授業づくりや適切な評価に努めている。	保護者		3.2	3.1
保護者4	【保護者】 学校は、いじめや不登校などの問題に対して、適切な対応に努めている。	保護者		3.2	3.1
保護者6	【保護者】 学校は、命を大切にする健康安全教育の推進に努めている。	保護者		3.4	3.1

(2) 分析 (□) ・考察等 (●)

※生徒自己評価、保護者アンケートの同一質問内容の二者比較項目及び保護者アンケート項目内容から

□生徒・保護者ともに「命を大切にし、安全で健康的に生活する」の項目で最も高い平均値(3.6)を得ました。特に生徒の67.9%が最高評価の「A」をつけており、学校生活における安全意識や心の教育が、生徒の内面に深く浸透していることがうかがえます。

●「自分のよさを自覚し、思いやりの心を大切にする」の項目で、生徒の85%が肯定的な評価(A+B)をしました。自己を肯定する気持ちが他者への配慮につながっており、授業や行事を通じた「自己有用感」を育む教育活動が、良好な人間関係の構築に寄与していると推察されます。

□「タブレット等の端末を効果的に活用し、進んで学習する」という項目の平均値は2.8となっており、他の項目と比較して低くなっています。保護者・生徒ともに否定的な評価(C・D)が一定数存在し、ICTの活用によって、主体的・意欲的な学習の深化まで結びついていない現状がうかがえます。

●今後は家庭学習での活用ルールの明確化や、授業内での活用との連動性が課題となります。単に「使う」段階から、確かな学びにどうつなげるかという「質の向上」が、解決の鍵と考えています。

□「授業づくり」「いじめ・不登校対応」「健康安全教育」といった学校側の取組に対して、保護者から肯定的な評価を得ました。評価D(不十分)が全項目で0人であることから、今後も組織的な教育活動の展開し、さらなる安心感と信頼の獲得につなげていきます。

●多くの項目で保護者評価と生徒評価の平均値がほぼ一致しました。これは、学校での生徒の姿と家庭での生徒の姿に大きなギャップがないことから、学校の教育方針が正しく伝わり、協力体制が築けていると考えられます。今後も一層の理解をいただけるよう努めます。

重点2「生徒の学びや成長を支える家庭・地域・校区小学校との連携・協働」

(1) 集計結果 A:4点(あてはまる) B:3点(どちらかといえば、あてはまる) C:2点(どちらかといえば、あてはまる) D:1点(あてはまらない)

(生徒自己評価と保護者アンケートから)

中央値 2.5

A B C D 導点:A=4、B=3、C=2、D=1として数値化

アンケート番号	項目		評価割合(ABCDの全体に対する割合 % 表記)	今年度	昨年度
保護者7 生徒 4	【保護者】 子供は、生活リズムを整えた家庭での生活習慣に取り組んでいる。 【生徒】 私は、生活リズムを整えた家庭での生活習慣に取り組んでいる。	保護者		2.9	2.9
		生徒		2.9	2.9
保護者8 生徒 5	【保護者】 子供は、自主的に家庭での学習に取り組んでいる。 【生徒】 私は、自主的に家庭での学習に取り組んでいる。	保護者		2.8	2.8
		生徒		3.0	2.8
保護者9 生徒 6	【保護者】 子供は、総合的な学習の時間で学んだ地域のことや外部の講師の話について、興味を持って話したり、自分なりに整理しようとしていたりしている。 【生徒】 私は、総合的な学習で、地域の方や外部の講師から教わったことを、自分の言葉でまとめて、人に伝えることができている。	保護者		2.9	—
		生徒		2.9	—

(保護者のアンケートから)

中央値 2.5

A B C D 導点:A=4、B=3、C=2、D=1として数値化

アンケート番号	項目		評価割合(ABCDの全体に対する割合 % 表記)	今年度	昨年度
保護者10	【保護者】 学校は、家庭と連携した生活・学習習慣の確立に努めている。	保護者		3.2	2.9
保護者11	【保護者】 学校は、地域と連携・協働した教育活動の充実に努めている。	保護者		3.3	3.1
保護者12	【保護者】 学校は、小学校との連携を図った小中一貫教育の推進に努めている。	保護者		3.1	3.0

(2) 分析 (□) ・考察等 (●)

※生徒自己評価、保護者アンケートの同一質問内容の二者比較項目及び保護者アンケート項目から

□自主的な家庭学習の取組において、生徒は肯定的な評価(A+B)が高い一方、保護者の評価はそれに及んでいません。「自分なりに頑張っている」と感じる生徒と、「もっと取り組んでほしい」と願う保護者の間に意識の差が見られます。

●生徒と保護者の認識の差を解消するため、学校側からも「重点項目」といった学習の見通しを具体的に提示するよう努めます。親子で学習の到達点や内容を共有できるよう、学習計画と達成状況を記録・可視化する仕組みを

充実させていきます。

□生活習慣の確立については、保護者・生徒ともに平均値が2.9とやや低めです。特にD評価（否定的な回答）が一定数見受けられることから、スマートフォンの長時間利用や就寝時刻の遅れなど、生活リズムの乱れを喫緊の課題として捉えている状況が推察されます。

●外部講師によるスマホ安全教室の実施や、学校からの積極的な情報発信を通じ、家庭でのルール作りを後押しする資料提供を行っていきます。

□学校の取組に関しては、保護者の肯定的な評価が得られました。特に「地域との連携」が最も評価されており、外部への情報発信や協力的体制づくりを今後も継続していきます。

●学校の外部連携（3.3）が評価される一方で、生徒自身の「地域の方から教わったことを伝える力（2.9）」には改善の余地が見られます。生徒が主体的に発信する機会を増やし、生徒の表現力や自信をさらに育む取組を推進していきます。

3 保護者「記述項目」について

(1) 主な記述内容

今年度も、学習指導や生徒指導をはじめ、「よりよい驚中を創る」ためのアイデアをいただきました。全文は掲載いたしません、主な内容については次のとおりです。

<学校運営および教職員の指導について>

- 悪天候時や酷暑・厳寒期における柔軟な早めの生徒玄関開錠。（要望）
- 教科担任制を活かした多角的な評価、および家庭・地域との密な連携。（意見）
- 一人一人の個性や意見の尊重、および傾聴を重視した関わり。（意見）
- 習熟度別クラス編成など、個々のレベルに合わせた学習環境の検討。（意見）

<行事および学習活動の充実について>

- クラス単位の出し物（装飾・模擬店等）の追加、および開催期間の延長。（意見）
- 体育大会開催時期の調整（暑さ対策）や、交流を目的とした球技大会の実施。（意見）
- 放課後学習の機会提供、および3年生の3学期末試験実施による学習意欲の維持。（意見）
- 「命のライブ」等の心に響く教育活動の推進。（要望）

<教育施設および環境整備について>

- 夏冬の厳しい気候に対応するためのエアコン・冷暖房の整備。（要望）
- 安全かつ快適な学校生活のための、建て替えや計画的な修繕。（要望）

<学校評価の回答選択について>

- 取り組みが不明な場合に対応する「わからない」等の選択肢の設定。（意見）
- 回答の判断材料となる、学校側の具体的な活動内容の周知。（意見）

(2) 分析・考察等

今年度の保護者アンケートにおける記述項目では、学校運営から教育活動、施設設備に至るまで、多岐にわたる貴重な意見・要望をいただきました。これらの内容は現在、職員会議等を通じて多面的に検討を重ねております。

① 教育環境の整備と安全確保（施設・設備面）

記述内容の中で最も多かったのは、施設の老朽化対策と学習環境の改善を求める声でした。特に、エアコンの設置や校舎の計画的な修繕、酷暑・厳寒期における柔軟な対応など、生徒の健康と安全に直結する要望が多数ありました。これらは「子どもたちが快適かつ安全な環境で学習に専念してほしい」という保護者の皆様の切実な願いの表れであると重く受け止めております。学校単独での解決には限界があるものの、学校運営協議会での協議を継続するとともに、教育委員会と緊密に連携し、少しでも過ごしやすい環境の実現に向け粘り強く取り組んでまいります。

② 教育活動の質的向上と生徒への関わり（指導・活動面）

教職員に対しては、生徒一人一人の個性を尊重した丁寧な関わりや、質の高い学習指導を期待する意見が多く寄せられました。

○学習面：習熟度に応じた指導や放課後学習の充実など、個々の意欲を維持・向上させる工夫。

○生活・行事面：生徒の主体性を育む学校行事のあり方や、命の尊さを学ぶ教育活動の推進。

○コミュニケーション：生徒との交流時間の確保や、若手教員への支援を含めた組織的な指導体制の構築。

これらの声に応えるべく、教職員の指導力向上と生徒に寄り添う時間の確保に努め、家庭・地域との密な連携を通じた「顔の見える教育」を推進していきます。

③ 開かれた学校づくりと評価システムの改善

学校評価そのものについても、「判断材料となる情報の周知」や「選択肢の工夫」といった建設的なご提案をいただきました。学校の取り組みがより透明性を持って伝わるよう、情報発信のあり方を再検討し、保護者の皆様により正しく学校を評価・支援できる仕組みづくりを進めます。

次年度においても、懇談会等で保護者の皆様から直接意見を伺う機会を大切にするとともに、生徒会活動等を通じて生徒自身の声も積極的に吸い上げてまいります。いただいた温かい励ましのお言葉を糧とし、寄せられた課題に対しては教職員一丸となって改善に努めます。今後も保護者・地域の皆様との継続的な対話を通じて相互理解を深め、鷺別中学校ならではの特色ある教育活動を力強く推進してまいります。